

公益社団法人日本青年会議所 北海道地区 西北海道ブロック協議会  
2026 年度会長所信

西北海道ブロック協議会  
会長 及川 雄也

【はじめに】

あなたは青年会議所のことを知らない人に、青年会議所をどのように説明するでしょうか。きっと様々な経験や環境、文化から多種多様な答えがあると思います。また、過去の自分と今の自分でも答えが違っているのではないのでしょうか。私が今もっとも端的に説明するのならば、「私たちは何かをする団体ではなく、何かを変える団体です」と説きます。私たちはこれまでどれだけのものを変えてきたでしょうか。これから何を変えれば自分や家庭、社業、地域、そして社会はより良くなるのでしょうか。私は理想への挑戦を繰り返し、志を次世代へと紡いでいくことで、人生や社会が明るく豊かになっていくと信じています。今、あなたにはもっと成長したいという志があるのでしょうか。私は、もっと成長したい、もっと経験したいという想いがあり、これは入会当初にはなかったものです。この価値観を変えたのは、志高く挑戦する人の存在でした。慣れない環境に慣れない作業、青年会議所にはただ前に進む成長だけでなく、階段を一步一步のぼり自らの環境を変えていく人間力開発の仕組みがあります。環境が変われば出会いも変わり、見えてくる景色も、見なければならぬ景色も変わります。非現実的な経験の繰り返しは、確実に人の成長をもたらします。私はもともとスキルや知識があるわけでもなく、人と関わることも面倒なことのひとつでした。私にとって大切だったのは時間であり、自分の時間を奪われることを嫌っていました。人と関われば関わるほど時間は奪われるものと考えていた当時は、本当に青年会議所は自分に合わないと思っていました。このような価値観を持った人間を大きく変えたのも、青年会議所であり、そこに所属する人でした。青年会議所は意味がない、時間の無駄だ、そう感じてしまうことはないのでしょうか。もちろん、私もそう感じていた時期がありました。毎回は参加しなくても、今回は参加しておこうかな程度の気持ちで、なんとなく参加していくうちに、様々な人の価値観に触れ、考えるようになりました。意味をなくしているのは自分ではないだろうか。時間を無駄にしているのは自分のせいではないだろうか。学びにならない、楽しくないと感じるのは本当に誰かのせいだろうか。周りを変えてもらうのではなく、楽しくしてもらうのではなく、自らが変わらなければ何も変わらない。このような確信にたどり着きました。しかし、各地青年会議所に目を向けると、実際にやりたくてもできない状態にある LOM やメンバーが多くなっているのが現状です。同じ青年会議所という組織にいるはずなのに、楽しさを感じる人と苦しみを感じる人がいる。私はこの不平等な状態をなくし、誰もが幸せを感じられる青年会議所にしたい。私はこれまで青年会議所で与えられた全てを恩返しとして与える側となり、西北海道ブロックに理想への挑戦を掲げます。

### 【全ての LOM に出会いを】

なぜ今日まで青年会議所を続けていられるのか、なぜこんなにも大変なのに辞めるという選択をしないのか、その問いにあなたならどう答えるでしょうか。私なら「人の想いを裏切りたくないからです」と答えます。この答えの背景には、この組織で出会った人々の存在があります。こんなにも笑える時間、こんなにも本音で語り合える時間、そして悲しみや悔しさ、感動や喜びに涙できる時間が青年会議所にはあります。あなたはそのような仲間や時間に出会えているでしょうか。私はそのような人たちと多く出会えたからこそ今があり、真の価値を実感できています。このような価値を感じられる青年会議所において、かつて当たり前だったことが今では当たり前ではなくなってきました。常に懸念され続けている会員減少は、様々なネガティブな要因を引き起こす原因となりますが、組織の衰退や運動の停滞よりも、出会いから生まれるきっかけが失われることこそが、青年会議所を弱くする本質だと私は考えます。わかっていながらも動き出せない現状に、活動や運動の規模は縮小し、気づけば出会いの場が減り、孤立を招くようになっていきます。誰かから必要とされているのか、自分にとって必要な場所なのかもわからなくなるなかで、青年会議所が発信するどのような前向きな言葉も心に響かなくなっているのが現状ではないでしょうか。あなたはどれだけの熱量で青年会議所や理想の未来を語れるでしょうか。一人ひとりが熱量の核となり、きっかけそのものになる必要があります。与えられた側であったなら、今度は与える側となり、多くの出会いを各地に届け、各地域からより良い北海道の創造に寄与できる未来をともに実現させましょう。

### 【紡ぐべき真の価値】

私は入会当初、なぜ青年会議所に入会したのか、その答えをまったく持っていませんでした。親が青年会議所のメンバーだったため、よくわからないまま入会したのがきっかけです。何を目的とした団体なのかも知らず、自分自身にも明確な目的がなく、時間ばかり取られることに意味を見いだせず、すぐに参加しなくなってしまいました。このような現象は、入会間もないメンバーにとって珍しいことではないはずです。だからこそ、組織に違和感を抱いてしまう前に、この組織が持つ価値をしっかりと伝え、共感を生み出すことが必要だと考えます。全ての青年会議所に共通する使命は、JCI Mission に示されているように「社会により良い変化をもたらす青年のリーダーシップの開発と成長の機会の提供」であり、その提供の仕方や受け取り方は多様であるといえます。しかし、正しいものを提供していても、その伝え方を誤れば、価値は伝わらず、最悪の場合は受け取ってもらえないこともあります。入会三年未満のメンバーを「退会予定者」と表現されることがあるように、この三年間での出会いや経験が、その後のメンバーの未来に大きく影響します。西北海道ブロック協議会として、さらなる LOM の発展のために、若いメンバーが自己の能力を発揮し、地域に貢献できる機会を提供することで、各地域からより良い運動が生まれる未来をともに実現していきましょう。

### 【希望を生み出す】

全国規模で懸念され続けている会員減少は、西北海道ブロックにおいてもほぼ全ての青年会議所が抱える課題であり、運動ができないどころか、そもそも組織を維持することすら難しい状況にある青年会議所も存在します。そのようななかで、ブロックが起こす事業は、これらの青年会議所にとって最大の機会であり、希望そのものとなることを実感したのが、2025年のブロック大会でした。これまでの事業といえば、社会課題の解決に向けた運動発信の場という印象が強くありましたが、ブロックが起こす事業にはそれだけではなく、開催地域と協働して事業を展開し、「誰もができない」と嘆く現状を「できる」という希望へと変える力があると確信しました。人数がないからやりたくてもできない、やったことがないからわからない、もうそこまで本気になれない、せめて解散だけは避けたい、こうした声は少なくありません。これら全ての課題を解決するために、私たち西北海道ブロック協議会が存在します。「できない」を「できる」に変える希望を生み出し、組織の規模に関係なく、全ての青年会議所が挑戦できる未来をともに実現していきましょう。

### 【北海道から日本を変える】

日本青年会議所のブロック協議会会則第4条には、「本協議会は、本会の定款で定める目的達成のため、当該ブロックに所属する会員会議所の意見を総合調整し、青年会議所運動の進展に寄与することを目的とする」と記されています。現在、会員減少や組織の解散により、各地青年会議所を活性化させる支援がブロックの主な役割であるという印象が強く、確かにそれは達成すべき重要な担いの一つではありますが、定められた目的には、日本青年会議所が起こす運動を各地青年会議所に届けるという明確な使命が存在しています。本会が開発した運動をそのまま発信する舞台を北海道に用意するだけでなく、質の高い運動をより北海道各地域の現状に合わせ、提供することこそが本質的な担いです。日本の課題を日本の課題のまま届けるのではなく、住み暮らす地域の課題として届け、西北海道ブロック全体で日本の課題解決に貢献できる未来を実現させましょう。

### 【信頼と付託は運動を最大化させる】

協議会は、各地青年会議所からの信頼と付託がなければ成立しない組織です。信頼とは、相手を信用し頼ること。付託とは、相手に任せること。この二つの関係性が維持されなければ、どれほど優れた運動であっても届きづらくなるだけでなく、組織内の連携が崩れる結果を招いてしまいます。組織のガバナンスを明確にするだけでなく、常にそれを守るための仕組みを構築し、小さな信用を確実に積み重ねることで、信頼され続ける組織であることが求められます。また、「先輩に誘われたから」「役職があるから」といった理由で参加した方々も、私たちにとっては大切な参加者であることに変わりはありませんが、本来あるべき姿は、協議会がつくる機会に「聞いてみたい」「やってみたい」という期待を抱いてもらえる状態にすることです。これまでのように「学びになる」「成長につながる」といった参加動機の提

供にとどまらず、新たなアプローチの構築とともに、どのような事業であっても、誰の何を  
変え、どういう未来を実現するものを誰に届けたいのか知ってもらうことに注力する必要  
があります。そのうえで、任せられる運動、信頼して託せる事業の発信を通じて付託を得る  
ことが重要です。私たちは、あらゆる面で模範となる姿を示し、信頼と付託を基盤として西  
北海道ブロック協議会がさらに発展する未来を実現していきましょう。

#### 【結びに】

青年会議所は、やればやるほど自分の弱点がよくわかる団体だと捉えています。苦手なこと  
や不安に感じる。やりたくないと感じること。私はこれら全てを自身の弱点と捉え、あ  
えてそのような環境に身を置き克服しようと心掛けてきたからこそ成長を実感できる瞬間  
がありました。このような機会に挑戦できる環境にあったことも今では恵まれていること  
だと振り返ることができます。青年会議所での挑戦は、自分次第で確実に豊かさとなって返  
ってきます。私にとって豊かさとは、多くの価値観に触れ、自己成長を遂げること、そして  
利害関係を超えて心から「友」と呼べる仲間と出会えてきたことです。青年会議所で過ごせ  
る時間は40歳までと限られています。今しかできないからこそ、「できるからやる」「でき  
ないからやらない」ではなく、『できないからこそやる』を選択することが挑戦への一歩と  
なります。自らの環境を変える一歩を踏み出すことで、必ずあなたの「今」が変わり未来が  
変わります。

ともに挑戦しよう。理想の未来のために